

目的 1982年、静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の30～59歳の全有配偶女性439人に対して「農村女性の生活構造と老後意識調査」を実施した。1993年、同一対象者に対して追跡調査を行い、11年の時間の経過に伴う社会の変動及び家族の変化は、農村女性の家族に対する情緒関係や生活意識にどのような影響を及ぼしたかを明らかにする。

方法 「農村女性の老後意識に関する追跡研究—11年調査との比較—」に同じ。

結果 82年と93年の調査で比較すると、①本人から各世代への情緒関係を「理解」と「頼り」の側面からスコア化し平均値を算出した結果、いずれの世代に対するスコアも低下した。②世代間のスコアの順位関係は「夫→子供→夫の母→本人の母→夫の父→本人の父」から「夫→子供→本人の母→夫の母→本人の父→夫の父」と変化し、夫の親と本人の親との情緒関係スコアが逆転した。③生活の各側面に対する満足度では、「近隣関係」への満足度が最も高く、「世帯収入」への満足度が最も低いことは変化が見られなかった。④「非常に満足」の割合は、「余暇生活」17.7%→24.8%、「世帯収入」9.3%→16.8%、「近隣関係」41.7%→51.1%、「生活全般」18.2%→26.5%とほとんどの項目で増加し、「家庭生活」が27.5%→24.4%と減少した。